

1. 越谷市環境管理計画



市の望ましい環境像

「みんなで創ろう

越谷の豊かな環境と未来」

を実現するため、

6の環境指標（定量評価）

4 5の取組指標（定量評価）

3 0 7の実施策

（状況を確認し内容を整理）

を設定し、

さらに、SDGsの3側面（環境・社会・経済）

の統合的かつ象徴的な取組を

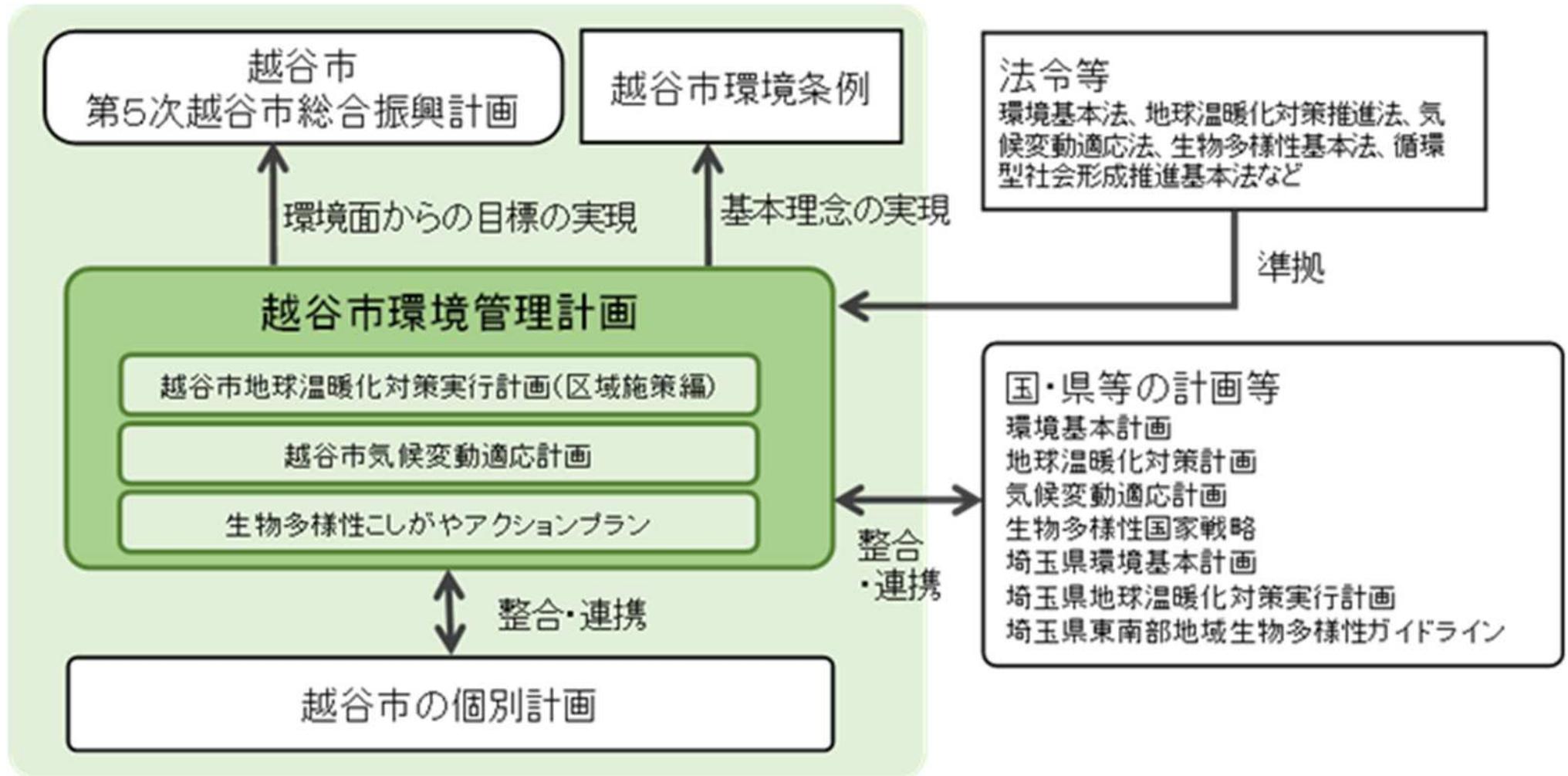
推進プロジェクトとして抽出。

計画期間

令和3年度（2021年度）から

令和12年度（2030年度）まで

越谷市環境管理計画の位置づけ



望ましい環境像と基本目標

第5次越谷市総合振興計画に掲げる将来像

水と緑と太陽に恵まれた みんなが活躍する安全・安心・共生都市



本計画における望ましい環境像

みんなで創ろう 越谷の豊かな環境と未来

環境施策の展開方向【基本目標】

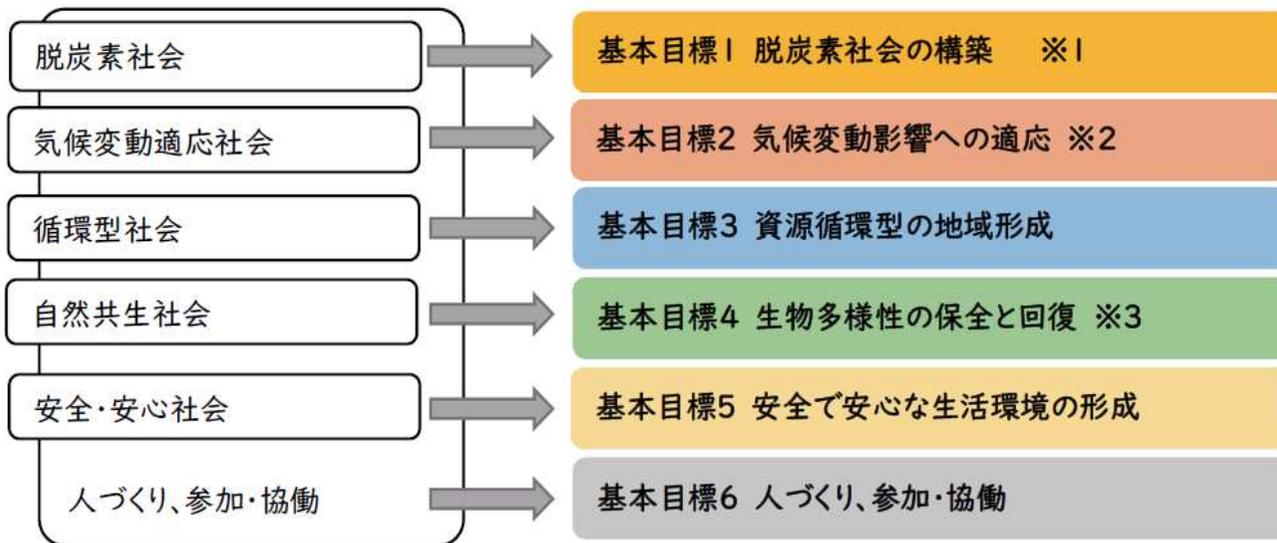


図 6つの基本目標と環境施策の連動イメージ図



基本目標 I 脱炭素社会の構築

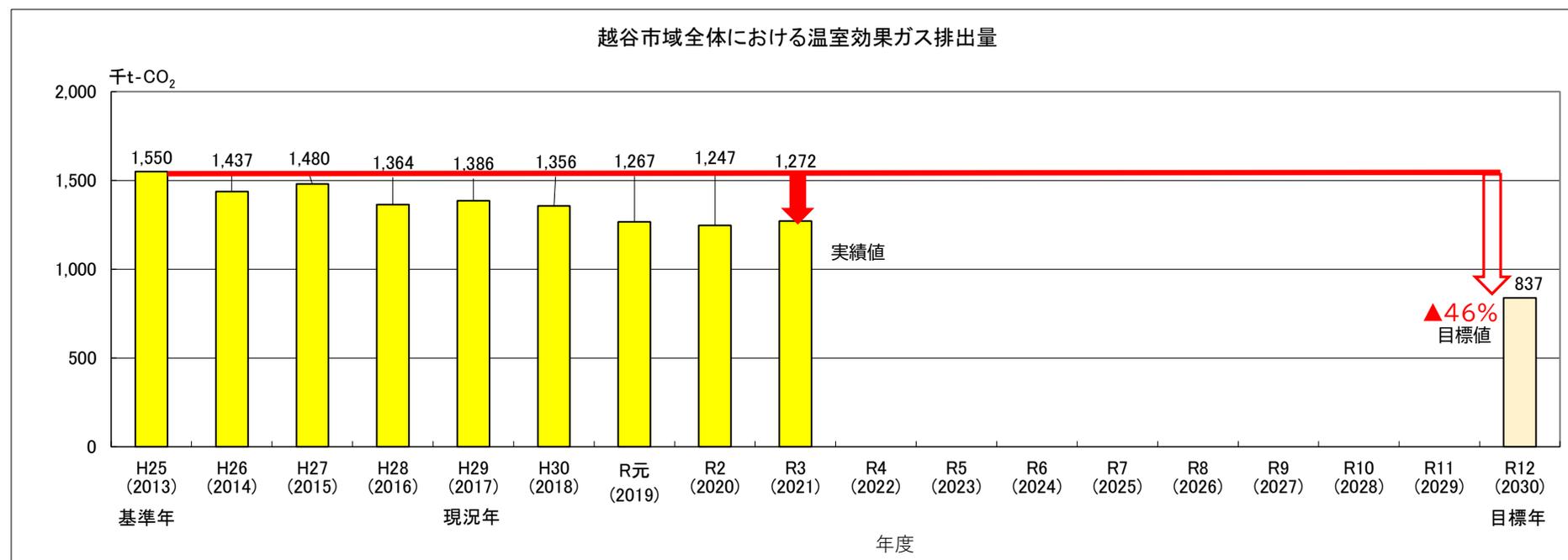
取組が貢献する、SDGsの該当ゴール



温室効果ガスの大幅削減を実現します。そのため、行政は他の関係者と協働し、緊急時のエネルギー確保の仕組みや、エネルギー効率を高めた都市基盤の整備を進めます。市民や事業者は温室効果ガスを排出しない生活や事業活動を心がけ、行動します。

環境指標

指標名	市域からの温室効果ガス排出量（総振）						
	市域からの温室効果ガス排出量のうち、二酸化炭素(CO ₂)とメタン(CH ₄)、一酸化二窒素(N ₂ O)の排出量【年間】						
現状値 令和元年度 (2019)	実績値					目標値 令和12年度 (2030)	評価
	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)	令和7年度(2025)		
2013年度比 10.6%減 (平成29年)	2013年度比 18.3%減 (令和元年)	2013年度比 19.6%減 (令和2年)	2013年度比 18.0%減 (令和3年)	-	-	2013年度比 46%以上減	B



基本目標1 脱炭素社会の構築

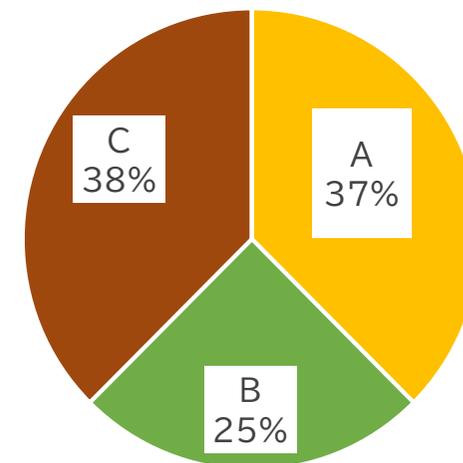
取組が貢献する、SDGsの該当ゴール



温室効果ガスの大幅削減を実現します。そのため、行政は他の関係者と協働し、緊急時のエネルギー確保の仕組みや、エネルギー効率を高めた都市基盤の整備を進めます。市民や事業者は温室効果ガスを排出しない生活や事業活動を心がけ、行動します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R5 (2023)	進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)
基本目標1 脱炭素社会の構築						
1-1 地球温暖化・COOL CHOICE普及取組年間参加者数（市民・事業者）	人	146	500	514	100%	A
1-2 建築物省エネ法に基づく届出等件数（総振）	件	211	980	479	35%	B
1-3 市の事業・支援による太陽光発電設備の発電容量（総振）	kW	7,423	11,000	9,362	54%	A
1-4 市の事業・支援による蓄電池の蓄電容量（EV含む）	kWh	621.5	6,700	3,933	54%	A
1-5 持続性の高い緑地面積	ha	1,420	1,445	1,399	0%	C
1-6 乗合交通利用圏域のカバー率（総振）	%	70.5	R7 (2025) 76.5	70	0%	C
1-7 リサイクル率（総振）	%	17.7	25	17.1	0%	C
1-8 革新的な取組の反映件数	件	—	5	1	20%	B



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
	3	2	3	0	8



地区センターや小中学校等の公共施設に**実質再生可能エネルギー由来の電力**を継続して導入した。

基本目標2 気候変動影響への適応

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール

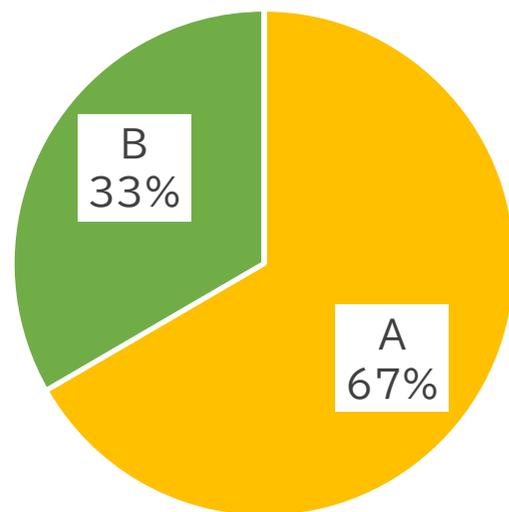


気候変動の影響に対し、命や財産を守ります。そのため、行政は他の関係者と協働し、気候変動によるリスクや影響を最小限にするための先手を打った対策を進めます。市民や事業者は、気候変動による影響への正しい理解を深め、適切に行動します。

■環境指標

2-1気候変動適応に関する市民への情報発信回数など4項目が「A」評価、2-5市の事業・支援による雨水貯留施設貯留量など2項目が「B」評価となっています。

これらの6項目の取組指標の進捗状況から、「B」評価とします。



基本目標2 気候変動影響への適応

2-1	気候変動適応に関する市民への情報発信回数	100%	A
2-2	気候変動適応に関する市内連携の取組件数	80%	A
2-3	猛暑日日数当たりの熱中症搬送数	100%	A
2-4	まるごとまちごとハザードマップ設置実施率（総振）	96%	A
2-5	市の事業・支援による雨水貯留施設貯留量	2%	B
2-6	気候変動適応に関する事業者への情報提供・支援などの取組件数	20%	B

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
	4	2	0	0	6

基本目標2 気候変動影響への適応

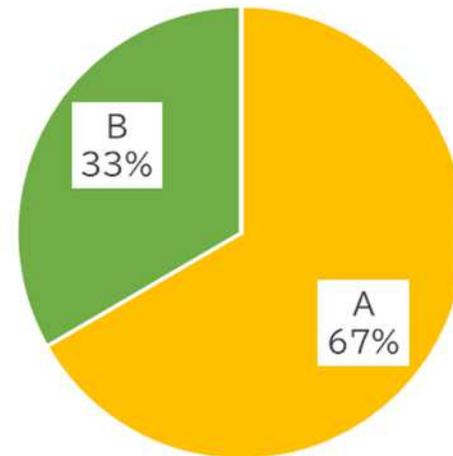
取組が貢献するSDGsの該当ゴール



気候変動の影響に対し、命や財産を守ります。そのため、行政は他の関係者と協働し、気候変動によるリスクや影響を最小限にするための先手を打った対策を進めます。市民や事業者は、気候変動による影響への正しい理解を深め、適切に行動します。

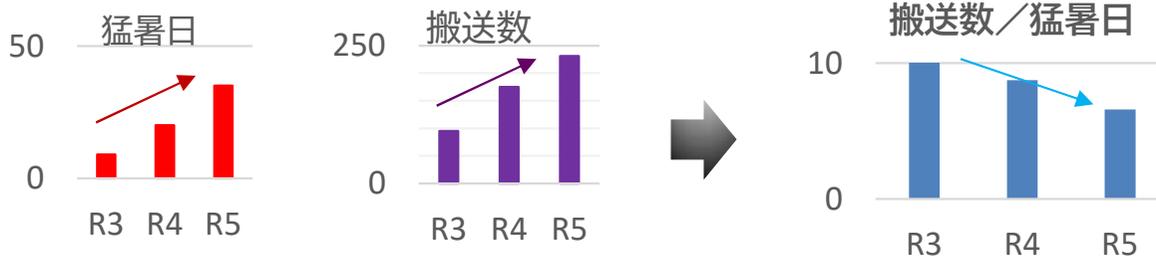
取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R5 (2023)	進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)
基本目標2 気候変動影響への適応						
2-1	気候変動適応に関する市民への情報発信回数	回	3	8	100%	A
2-2	気候変動適応に関する庁内連携の取組件数	件	5	4	80%	A
2-3	猛暑日日数当たりの熱中症搬送数	人/日	9.0	6.6	100%	A
2-4	まるとまちごとハザードマップ設置実施率（総振）	%	R7 (2025) 100	96	96%	A
2-5	市の事業・支援による雨水貯留施設貯留量	m3	5,440	5,310	2%	B
2-6	気候変動適応に関する事業者への情報提供・支援などの取組件数	件	10	2	20%	B



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
	4	2	0	0	6

《2-3 猛暑日日数当たりの熱中症搬送数》



基本目標3 資源循環型の地域形成

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール

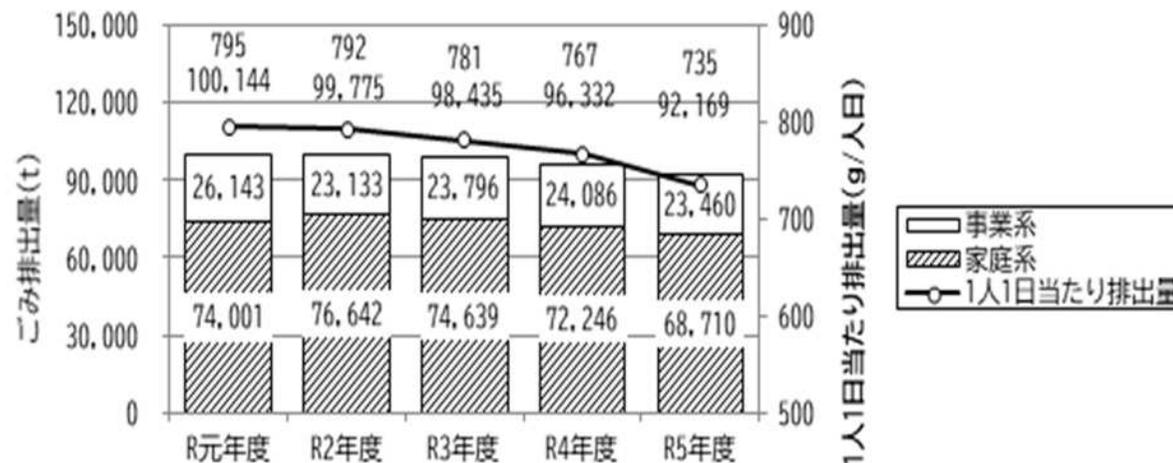


資源が適切に循環する社会を構築します。そのため、行政は他の関係者と協働し、ごみの適正処理の推進や地域内での資源循環を進めます。市民や事業者は、資源を大切に生活や事業活動を心がけ、行動します。

■環境指標

指標名	1人1日当たりごみ排出量（総振） 市民1人1日当たりが排出するごみの量【年間】					目標値 令和12年度 (2030)	評価
	実績値						
現状値 令和元年度 (2019)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)	令和7年度(2025)		
795 g/人・日	781 g/人・日	767 g/人・日	735 g/人・日	-	-	690 g/人・日	A

【参考】ごみ排出量の推移



基本目標3 資源循環型の地域形成

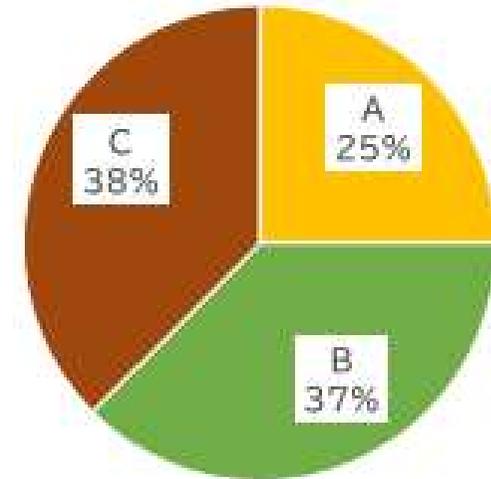
取組が貢献するSDGsの該当ゴール



資源が適切に循環する社会を構築します。そのため、行政は他の関係者と協働し、ごみの適正処理の推進や地域内での資源循環を進めます。市民や事業者は、資源を大切に生活や事業活動を心がけ、行動します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R5 (2023)	進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)
基本目標3 資源循環型の地域形成						
3-1	リサイクル率（総振） 【再掲】	%	25	17.1	0%	C
3-2	家庭から排出される食品ロス量	t/年	6,000	7,410	31%	B
3-3	集団資源回収実施団体登録件数	団体	500	418	0%	C
3-4	事業系ごみ排出量	t	21,000	23,460	52%	A
3-5	排出事業者及び収集運搬許可業者を対象とした説明会実施回数	回	2	1	0%	C
3-6	ふれあい収集の登録件数（総振）	件	800	618	45%	B
3-7	電子マニフェスト普及率（総振）	%	90	77	10%	B
3-8	地場農産物の学校給食使用品目数	品目	12	12	100%	A



ふれあい収集の内容

【対象となる方】

- (1) 65歳以上の者のみの世帯
- (2) 障がい者を有する者のみの世帯
- (3) その他市長が必要と認める世帯

【収集方法】

一般収集と同様に分別して出す。
週1回、市の職員が訪問して収集。

【申請から実施までの流れ】

- (1) リサイクルプラザ業務担当までご相談する。
- (2) 職員による訪問調査を行い、状況を確認。
- (3) 実施の有無を決定し、収集を開始。

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	2	3	3	0	8

ふれあい収集について
(民生委員・児童委員だより掲載)

基本目標4 生物多様性の保全と回復

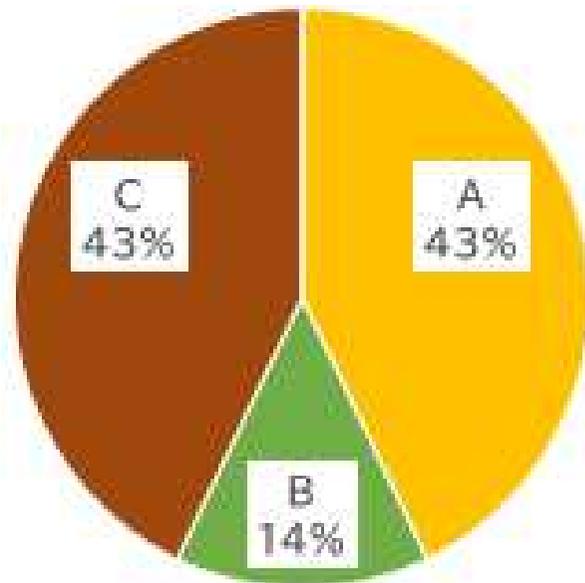


多くの動植物が生息する環境を保全し、生物多様性を回復します。そのため、行政は他の関係者と連携し、農地・屋敷林などの緑や河川などの動植物の生息・生育地を保全し、生物多様性の回復を進めます。市民や事業者は、地域の自然への関心を高め、重要性を認識します。

■環境指標

4-4合併処理浄化槽普及率などの3項目が「A」評価、4-1希少植物の栽培・補植活動実施面積1項目が「B」評価、4-2保存・樹林・樹木地区の指定箇所数など3項目が「C」評価となっています。

これらの7項目の取組指標の進捗状況から、「C」評価とします。



指標項目	進捗	評価	
	R5 (2023)	R5 (2023)	
基本目標4 生物多様性の保全と回復			
4-1	希少植物の栽培・補植活動実施面積	42%	B
4-2	保存・樹林・樹木地区の指定箇所数（総振）	0%	C
4-3	生物の生息・生育に配慮した区域の面積（総振）	0%	C
4-4	合併処理浄化槽普及率（総振）	57%	A
4-5	排水基準適合率（総振）	100%	A
4-6	農地利用集積地域数（総振）	0%	C
4-7	生物多様性子ども調査実施学校数	100%	A

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	3	1	3	0	7

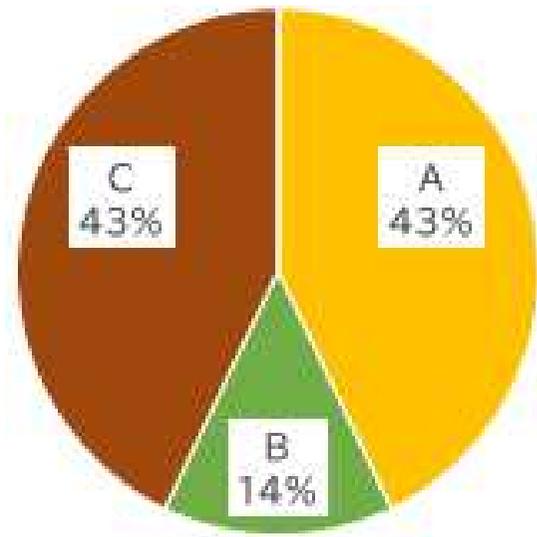
基本目標4 生物多様性の保全と回復



多くの動植物が生息する環境を保全し、生物多様性を回復します。そのため、行政は他の関係者と連携し、農地・屋敷林などの緑や河川などの動植物の生息・生育地を保全し、生物多様性の回復を進めます。市民や事業者は、地域の自然への関心を高め、重要性を認識します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R5 (2023)	進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)
基本目標4 生物多様性の保全と回復						
4-1	希少植物の栽培・補植活動実施面積	m2	135	120	42%	B
4-2	保存・樹林・樹木地区の指定箇所数（総振）	か所	R7 (2025) 10	0	0%	C
4-3	生物の生息・生育に配慮した区域の面積（総振）	ha	34	32.4	0%	C
4-4	合併処理浄化槽普及率（総振）	%	50	44	57%	A
4-5	排水基準適合率（総振）	%	R7 (2025) 100	100	100%	A
4-6	農地利用集積地域数（総振）	地域	6	4	0%	C
4-7	生物多様性子ども調査実施学校数	校	30	30	100%	A



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
	3	1	3	0	7



◀ 令和5年5月13日大相模調節池生き物調査の様子

基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール

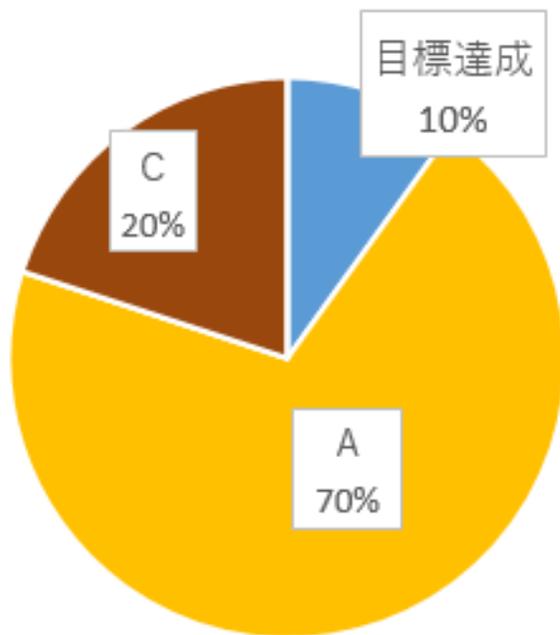


私たちを取り巻く生活環境を適切に保全します。そのため、行政は他の関係者と協働し、測定・監視・指導などを行い、安全で安心な生活環境の形成を進めます。市民や事業者は、暮らしや産業活動によって生活環境を汚染しないよう心がけ、行動します。

■環境指標

5-6「こしがや景観資源」の登録件数1項目が目標達成、5-1排水基準適合率など7項目が「A」評価、5-3人口1000人あたりの騒音による苦情件数など2項目が「C」評価となっています。

これらの10項目の取組指標の進捗状況から、「C」評価とします。



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
1	7	0	2	0	10

指標項目		進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)
基本目標5 安全で安心な生活環境の形成			
5-1	排水基準適合率（総振）【再掲】	100%	A
5-2	合併処理浄化槽普及率（総振）【再掲】	57%	A
5-3	人口1000人あたりの騒音による苦情件数（SDGsローカル指標）	0%	C
5-4	空間放射線量・給食放射性物質の目標達成率	100%	A
5-5	人口1000人あたりの悪臭による苦情件数（SDGsローカル指標）	100%	A
5-6	「こしがや景観資源」の登録件数（総振）（累計）	100%	目標達成
5-7	景観の満足度（総振）	97%	A
5-8	自治会清掃回収件数	0%	C
5-9	市の事業・支援による蓄電池の蓄電容量（EV含む）【再掲】	54%	A
5-10	多面的機能に関する情報発信件数	100%	A

基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

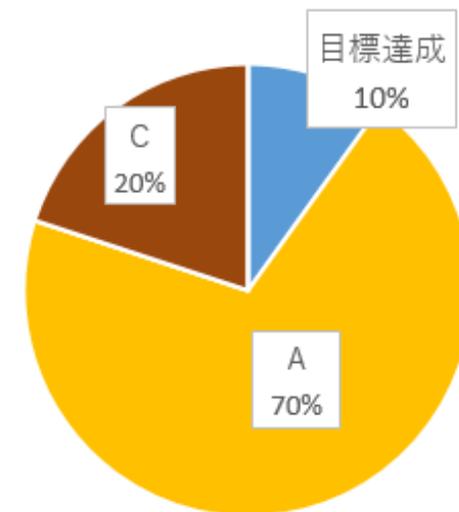
取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



私たちを取り巻く生活環境を適切に保全します。そのため、行政は他の関係者と協働し、測定・監視・指導などを行い、安全で安心な生活環境の形成を進めます。市民や事業者は、暮らしや産業活動によって生活環境を汚染しないよう心がけ、行動します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R5 (2023)	進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)	
基本目標5 安全で安心な生活環境の形成							
5-1	排水基準適合率（総振） 【再掲】	%	100	R7 (2025) 100	100	100%	A
5-2	合併処理浄化槽普及率 （総振）【再掲】	%	36	50	44	57%	A
5-3	人口1000人あたりの騒音 による苦情件数（SDGs ローカル指標）	人	0.15	0.15	0.29	0%	C
5-4	空間放射線量・給食放射 性物質の目標達成率	%	100	100	100	100%	A
5-5	人口1000人あたりの悪臭 による苦情件数（SDGs ローカル指標）	人	0.06	0.06	0.04	100%	A
5-6	「こしがや景観資源」の 登録件数（総振）（累 計）	件	65	R7 (2025) 240	249	100%	目標達成
5-7	景観の満足度（総振）	%	66.7	R7 (2025) 70	69.9	97%	A
5-8	自治会清掃回収件数	件	372	400	360	0%	C
5-9	市の事業・支援による蓄 電池の蓄電容量（EV含 む）【再掲】	kWh	621.5	6,700	3,933	54%	A
5-10	多面的機能に関する情報 発信件数	件	4	6	15	100%	A



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
1	7	0	2	0	10



こしがや景観資源R5登録
久伊豆神社（もみじ）

基本目標6 人づくり、参加・協働

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール

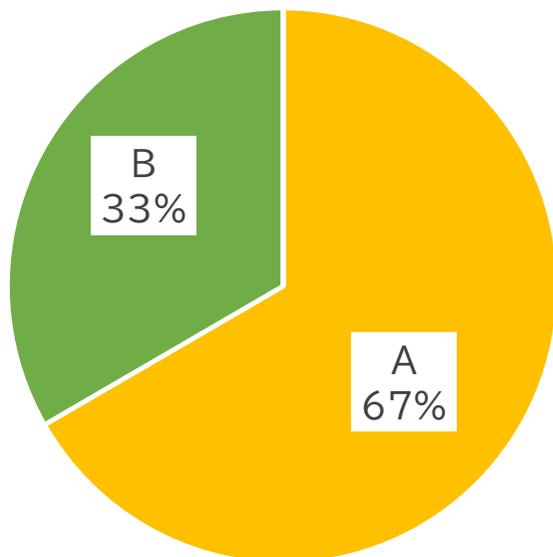


市内の全ての関係者の参加と協働を促し、一丸となって取り組みます。そのため、行政は他の関係者が行政事業に積極的に参加・協働できる場・仕組み作りを進めます。市民や事業者は環境やSDGsに対する正しい理解を深め、行政事業に積極的に参加・協働します。

■環境指標

6-1環境・SDGs学習の実施校数など4項目が「A」評価、6-3環境・SDGsイベント参加者数など2項目が「B」評価となっています。

これらの6項目の取組指標の進捗状況から、「B」評価とします。



指標項目		進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)
基本目標6 人づくり、参加・協働			
6-1	環境・SDGs学習の実施校数	100%	A
6-2	環境・SDGsに関する取組件数（総振）	100%	A
6-3	環境・SDGsイベント参加者数	34%	B
6-4	市民・事業者によるSDGs宣言世帯数・事業所数（総振）	17%	B
6-5	連携取組における発表事例数	50%	A
6-6	市民のエシカル消費に向けた関連施策の実施件数	100%	A

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	4	2	0	0	6

基本目標6 人づくり、参加・協働

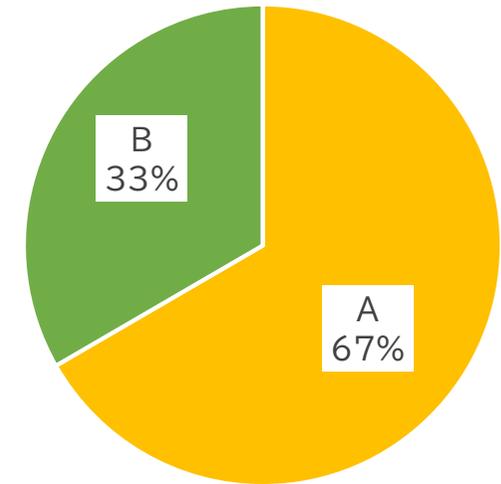
取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



市内の全ての関係者の参加と協働を促し、一丸となって取り組みます。そのため、行政は他の関係者が行政事業に積極的に参加・協働できる場・仕組み作りを進めます。市民や事業者は環境やSDGsに対する正しい理解を深め、行政事業に積極的に参加・協働します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R5 (2023)	進捗 R5 (2023)	評価 R5 (2023)	
基本目標6 人づくり、参加・協働							
6-1	環境・SDGs学習の実施校数	校	45	45	45	100%	A
6-2	環境・SDGsに関する取組件数(総振)	件	24	R7 (2025) 30	30	100%	A
6-3	環境・SDGsイベント参加者数	人	5,232	10,000	6,857	34%	B
6-4	市民・事業者によるSDGs宣言世帯数・事業所数(総振)	件	—	R7 (2025) 1,000	168	17%	B
6-5	連携取組における発表事例数	事例/年	—	10	5	50%	A
6-6	市民のエシカル消費に向けた関連施策の実施件数	件	2	10	13	100%	A



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
	4	2	0	0	6



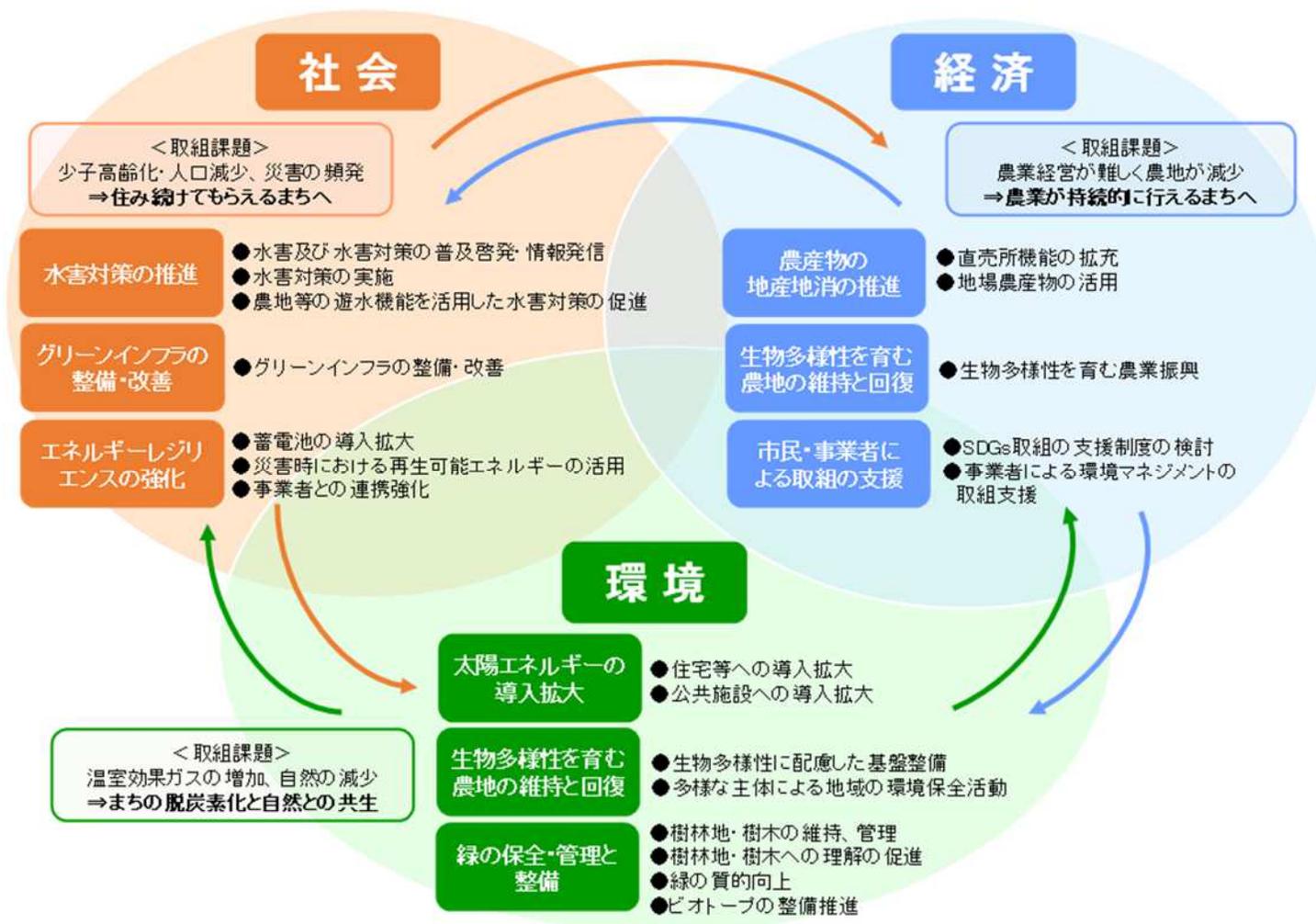
◀ しがやSDGsパートナー1周年イベントの様子



SDGsの3側面（環境・社会・経済）の統合的かつ象徴的な取組 推進プロジェクト

プロジェクトの分野 「気候変動」 × 「防災」 × 「エネルギー」

みんなが創る 越谷の自然環境を活かした気候変動に強いまちづくり



推進プロジェクト① 環境面の取組

取組課題

温室効果ガスの増加、自然の減少
⇒まちの脱炭素化と自然との共生

太陽エネルギーの導入拡大

- 住宅等への導入拡大
- 公共施設への導入拡大

生物多様性を育む農地の維持と回復

- 生物多様性に配慮した基盤整備
- 多様な主体による地域の環境保全活動

緑の保全・管理と整備

- 樹林地・樹木の維持、管理
- 樹林地・樹木への理解の促進
- 緑の質的向上
- ビオトープの整備推進

進捗管理指標

指標項目	現況値 令和元年度 (2019)	目標値 令和12年度 (2030)	実績値 令和5年度 (2023)	進捗 令和5年度 (2023)
市の事業・支援による太陽光発電設備の発電容量	7,423 kW	11,000 kW	9,362 kW	54%
生物の生息・生育に配慮した区域の面積	32.4ha	34ha	32.4ha	0%

推進プロジェクト② 社会面の取組

取組課題

少子高齢化・人口減少、災害の頻発
⇒住み続けてもらえるまちへ

水害対策の推進

- 水害及び水害対策の普及啓発・情報発信
- 水害対策の実施
- 農地等の遊水機能を活用した水害対策の促進

グリーンインフラの整備・改善

- グリーンインフラの整備・改善

エネルギーレジリエンスの強化

- 蓄電池の導入拡大
- 災害時における再生可能エネルギーの活用
- 事業者との連携強化

進捗管理指標

指標項目	現況値 令和元年度 (2019)	目標値 令和12年度 (2030)	実績値 令和5年度 (2023)	進捗 令和5年度 (2023)
まるごとまちごとハザードマップ 設置実施率	-	令和7年度 (2025) 100%	96%	96%
市の事業・支援による蓄電池の 蓄電容量(EV含む)	621.5 kWh	6,700 kWh	3,933 kWh	54%

推進プロジェクト③ 経済面の取組

取組課題

農業経営が難しく農地が減少
⇒農業が持続的に行えるまちへ

農産物の 地産地消の推進

- 直売所機能の拡充
- 地場農産物の活用

生物多様性を育む 農地の維持と回復

- 生物多様性を育む
農業振興

市民・事業者によ る取組の支援

- SDGs取組の支援制度の検討
- 事業者による環境マネジメ
ントの取組支援

進捗管理指標

指標項目	現況値 令和元年度 (2019)	目標値 令和12年度 (2030)	実績値 令和5年度 (2023)	進捗 令和5年度 (2023)
地場農産物の 学校給食使用品目数	12品目	12品目	12品目	100%
市民・事業者によるSDGs宣言世帯数・ 事業所数	-	令和7年度 (2025) 1,000件	168件	17%

2. 令和5年度 越谷市環境審議会からの意見(抜粋)等について

意見	前年度の審議会の意見に対しては、市の対応及び進捗を分かりやすく説明していただきたい。
対応等	当該年度の第1回の審議会において報告いたします。

意見	環境推進市民会議に代わる体制を検討し、市民・事業者と協働するとともにプロセスから参画できるよう環境施策を進めていただきたい。
対応等	令和5年2月に「こしがやSDGsパートナー制度」を創設し、パートナー間の横断的なネットワークづくりを支援するため、毎年1回、一堂に会するイベントを開催しております。今後については、こしがやSDGsパートナーと連携した環境施策の推進について調査研究してまいります。

2. 令和5年度 越谷市環境審議会からの意見(抜粋)等について

意見	環境管理計画の実施状況報告書については、実施施策についても、次年度の取組に反映できる時期までに報告していただきたい。
対応等	適切な時期までに報告いたします。

意見	市域からの温室効果ガス排出量については、当該年度実績の公表に2年程度のずれが生じていることを分かりやすく表記していただきたい。
対応等	該当の内容については、実施状況報告書に説明を記述いたします（7ページ）。

2. 令和5年度 越谷市環境審議会からの意見(抜粋)等について

意見	市民団体との協働による調査、市民参加による生きもの調査の実施について、モニタリング等の具体的な取組を検討していただきたい。
対応等	これまで定期的に行ってきた生きもの調査は、前回調査の報告会から5年となる令和9年度の実施に向けて検討を進めてまいります。令和6年度は、大相模調節池のビオトープで関係団体と連携し、冬鳥の観察会を1月中旬に予定しております。

意見	「30 by 30」については、OECMの登録を視野に検討していただきたい。
対応等	平方自然観察林及び大相模調節池のビオトープを候補地として関係者と意見交換を実施し、現状の整理を行いました。今後については、制度の趣旨や関係団体の意見等を勘案しながら検討してまいります。